

神奈川県立小田原支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和7年度 小田原支援学校 第3回 学校運営協議会
開催日時	令和7年11月11日(火) 10:00~12:15
開催場所	小田原支援学校 小田原校舎応接室
出席者	運営協議会委員(本校校長含む)8名※欠席者なし 事務局教職員13名
会議資料	第3回学校運営協議会次第、各部門・校舎・各グループ中間評価まとめ(目玉となる取り組みについての振り返り)、保護者・生徒・教員アンケートまとめ、中間評価全体総括資料
議事録	<p>1、会長挨拶 本日は、中間評価、働き方改革等についてご説明いただき、拝聴しながら参考になるような意見交換を期待している。宜しくお願いします。</p> <p>2、校長挨拶 第2回協議会では教職員にとって働きやすい職場についての取り組みとして、教員によるワークショップの実施、総括による分類を行ったことについてお伝えした。その後、国や県に働きかけること、学校でできること、個人でできることなど仕分けをしてきた。9月から具体的な取り組みとして2点スタートした。 ①日々の連絡帳の記載内容の簡略化 ②空体の朝の打ち合わせを週1回のみとする 効果については、この後の中間評価の中でお伝えする。また、防災部会でのSB運行時の災害対策についての取り組みでは、仕組みの構築や具体的な方策を検討している。切れ目ない支援部会で取り上げている、「丁寧なかかわりのスタンダード」については実践の好事例を上げて職員会議棟で共有をしている。今後も地域・家庭・関係諸機関を巻き込みながら取り組みを進めていく。</p> <p>3、学校評価部会 ○中間評価について &lt;各学部・校務グループより&gt; ◆小A:学部全体で遊具の要求についてカードを用いたコミュニケーション支援に取り組み、個々の発信の力を伸ばすことができた。 情報提供の方法を工夫していく。 ◆中A:「始まりと終わり」や、報告や次の活動への流れが分かりやすい環境設定の工夫を図り、次の活動に自分から取り組める生徒が増えた。 生徒にとってより良い教育課程となるよう、日課の見直しを継続している。 ◆高A:シチズンシップ教育として、参院選挙における模擬投票の実施。政治参加意欲の向上につながられた。 ◆小B:ICT機器を利活用し、普段見えないものを可視化する授業実践を積み重ねた。ICT活用と実物を用いた経験の両輪で授業づくりを継続する。 ◆中B:視線入力機器を活用し、注視する力を伸ばすこと、因果関係を学ぶ学習を積み重ね、生徒の学習意欲が高まっている。今後も継続していく。 ◆高B:端末のアプリを活用し、生徒自身が朝の会の進行を行う取り組みを継続した。自信を持って取り組む姿が見られるようになった。 小田原高校との学校間交流を実施予定。小田原高校生徒の希望を受け、自立活動(作業学習)を行う。 ◆大井分:ボランティア委員が、他校高校2校とともに活動し、交流を行うことができた。取り組みの積み重ねを通して、お互いを認め合う、共生社会の実現のための素地作りに貢献したい。 ◆湯河原:「地域とつなぐ・つながる・つながりあう」の校舎理念のもと、「地域との協働」の取り組みを継続したい。自衛隊地域協力本部の方や、生活介護事業所の方にゲストティーチャーとして来校いただき、防災や作業体験を行った。 ◆教務部:子どもたちへのより良い授業づくり、教育の質の向上を目指し、教育課程編成検討会を立ち上げた。見直しの視点を整理し、系統性のある行事・校外学習の整理を始めた。 ◆指導部:特総研より発行されている「特別支援学校におけるICTを活用した教育を推進するために 推進ガイドライン」を一つの指針として参照しながら校内研修を実施。 ◆総務部:ガントチャートを用いて業務内容を整理、業務の可視化を図った。 ◆管理部:給食献立周知の公式インスタグラム活用、より実際に近い避難訓練の実施に取り組んだ。 ◆支援連携部:地域の小中学校でインクルーシブ出前授業を行い、インクルマインドの種をまく活動を行うことができた。</p> <p>【意見交換】 &lt;校長&gt;:ヒヤリハットのグッジョブについて補足説明を。 ⇒(B部門長)ハインリッヒの法則により、小さな報告をたくさん出して大きなヒヤリハット案件、ミスを減らしていこうという取り組みを行っている。簡素化した書式を使い、前向きにヒヤリハット案件を報告し、それに対して「報告してくれてありがとう」という意味でのグッジョブとしている。</p>

<校長>教務部教育課程編成の変更について(委員としての立場からの意見として)

教員の思いという表現により、どうしても働き方改革に観点が向きがちになる。あくまでも子ども達の学びにかえていくことが大切。例えば中Aの取り組みの中にある日課のアップデート、早帰りなどでも、できた時間を何に充てていくのか。どう学びに生かしていくのかなど、表現していく上で視点をしっかり押さえることが大切である。

○アンケートのまとめより

<保護者アンケート>

- ・感謝やねぎらいのお言葉が多く寄せられた。また、改善点についていただいた御意見を基に、今後取り組んでいく。
- ・教員の専門性、ICT活用などはやや評価が低い部分である。保護者の学校をもっと知りたいという思いを受け止め、情報発信の仕方の工夫を検討し、保護者に寄り添っていくことを大切にする。
- ・いただいたご意見を基に「より良い授業を子どもたちに還元すること」「遠足や校外学習の狙いを明確にしていくこと」「保護者間の交流の場の検討」などにも取り組んでいく。

<教員アンケート>

- ・アンケート上の数字とコメントにずれがあるが、肯定的な意見は保護者と重なる部分が多い。
- ・ICTの活用、電子黒板導入についての意見も多数ある。
- ・iPadとChromebookをどのようにつなげて活用するか、子ども達にとっていかに良い学びとできるか、県に意見を届けながら、校内でできることに取り組んでいく。
- ・キャリア教育一覧表、キャリアパスポートの活用の必要性について。
- ・避難訓練の行い方の検討の必要性について。

<生徒アンケート>

- ・おおむね、学校は楽しい、担任は話を聞いてくれているという意見である。
- ・職業の授業は役に立つ。だが卒業後の生活への不安がある。
- ・より良い学校にしたいという子ども達の思いを大切にされた取り組みを実現していく。

## 5、学校運営協議会

○部会報告(取り組みの報告)

◆防災部会:

- ・スクールバス運行時の発災について報告 2月から3月に施設間で運行時の発災訓練を行っている梅光園、ふじみのさとの訓練に参加させていただくのが良いかと考えている。
- ・施設による電話訓練にも参加させていただきたい。今後調整をしていく。
- ・道路事情についての共有。

◆切れ目ない支援部会:就労先に行ってから不安などに対して。

- ・進路支援、保護者の話を聞く機会の充実、学びの場、保護者同士の横のつながり、保護者のメンタルヘルス研修などを検討していく。
- ・B部門では特に進路先の不安がある。
- ・情報共有ができるように、移行支援会議を積極的に行っていくことが必要である。横のつながりやセンターの機能、多様性の理解を進めていく。社会全体の生きやすさを構築していくためにもインクルーシブのマインドを育てていくことの重要性(長いスパンでの)をおさえ、それぞれの「得意」を生かしていく視点を持つ。

○意見交換【本日の感想】

- ・支援学校を卒業後、就労する人もいると思うが、できたら生徒が長く勤めているかどうか、追跡調査をしてほしい。少しでも長く勤めてほしい。就労させるだけでなく、その後のことまで見てほしい。
- ・アンケート拝見し、自分たちも改善していくことに関して参考にしていきたい。
- ・自分の立場としてもやれることをやっていきたい。学校とも連携していきたい。
- ・普段は大学生を見ているが、インクルーシブへの理解がまだ育っていないと感じる。いろいろな側面から進めていきたい。
- ・コロナ過の時はできることできないことの話が多かったが、この頃は学校での様々な取り組みの動きが速くなっていると感じ、感銘を受けた。
- ・モニタリングの意味について確認できた。個別支援計画と個別教育計画の関連性を改めて感じている。モニタリングの観点、第三者の評価をする人がいることの重要性を改めて感じた。

○会長あいさつ

工夫をして彼ら(子ども達)に伝えたいこと、相手からの発信に役立つように(双方向のやり取り)することが大切。保護者アンケートでは、今後の方向性が提示されていることが素晴らしい。「わからない」という回答の多さについては、受け手となる保護者に情報が届いていない部分はまだあるのではないかと。そんな中で「いつでも見られるのですよ」という発信の良さを感じた。

○校長あいさつ

中間評価について、先ほどは委員の立場として意見を言わせていただいた。委員の方から頂く意見はとても大切と考える。肯定的な意見だけでなく、ご指摘もぜひいただきたい。トップダウンよりもこのような意見の伝え方のほうが教職員に伝えるとき、納得しやすいと考えている。また、スクールバスのGPSシステムを来年度から搭載することが決定している。前任校の保護者からのご意見がきっかけであった。委員からの意見として教育委員会に伝えたことが実を結んだ形である。先ほどの話にもあったICTに活用についても、学校の中だけではなく、子ども達の生活にどのようにつながっていくのかという意見についても、県にも伝えていきたい。

○事務連絡

- ・次回は令和8年2月24日(火) 10:00から
- ・第4回に向けて資料を送ります。目を通していただき、ご意見を頂戴したい。